



## 立川市民科の教科化元年

校長 佐藤 邦彦

### 【立川市民科】

立川市では、平成27年度から立川市民科の取り組みが始まりました。本校でも「町探検」や「昔遊び」など、地域の方と一緒に教育活動をすすめてきました。今回の教科化は、それらの活動を基盤として、国語や算数と同じように立川市民科を一つの教科として定めるものです。この教科化にあたっては、市議会や立川市教育委員会、教科化検討委員会等で話し合いが重ねられました。そして、文部科学省に申請し、令和4年度4月から教科としての立川市民科の新しい取組（1・2年生15時間、3年生以上35時間）がスタートします。

1年生	・生活102時間→87時間
2年生	・生活105時間→90時間
3年生	・総合的な学習の時間
以上	70時間→40時間
	・特別活動
	35時間→30時間

立川市民科の目的は、次のように定められています。「地域に根差した探究的な学習等を通して、市民性を育むことにより、多様性を尊重し、世界の人々と力を合わせ、『よりよい社会』の実現に向け、主体的に考え、行動する市民を育成すること」つまり「地域」がキーワード

になります。そして、「地域を知り、地域を大切にする思いを育む中で、世界を見つめ未来を拓いていく児童・生徒」や、「地域と関わり、主体的に考え行動し、よりよい地域づくりに参画しようとする児童・生徒」の育成を目指してまいります。

本校では、1年生は自然の素材を生かした「おもちゃづくり」、2年生は地域の素敵などころを発見する「町探検」、3年生は地域の伝統工芸に触れる「西砂だるま調べ」、4年生は共生社会理解を含めた「やさしい町づくり」、5・6年生は「麦プロジェクト」「起業家教育プログラム」の体験を通して、地域に貢献する資質を学びます。

それ以外に市内全小学校で取り組む「応急救護・普通救命講習」（6年）「立川シビックプライド」（5年）「認知症サポーター養成講座」（4年）「立川夢・未来ノート」（全学年）にも取り組んでまいります。そして、国語や算数をはじめ各教科等で学んだ力を、この立川市民科でさらに生かし、新たな資質・能力の育成を図っていかうと考えています。

## 【高学年教科担任制】

教科担任制の導入に向けて

### ◆目的

- ・中1プロブレム解消に向けて、中学校への円滑な接続を図る。
- ・多様な課題に対して、複数の教員の多様な視点で対応する。

### ◆小学校の教科分担の比較

令和4年度

	従来の専科	教科担任制
1・2年生	全教科担任	音楽
3年生	図工・音楽	図工・音楽
4年生	図工・音楽	図工・音楽 理科
5年生	図工・音楽	図工・音楽 理科・外国 語・家庭科
6年生	図工・音楽	図工・音楽 理科・外国 語・家庭科
中学生	全教科	全教科

### ◆児童からこんな声が聞こえてきて

- ・自分に合う先生が見つかり、気軽に話ができるようになった。
- ・いろいろな先生に相談できるので、気持ちが楽になった。
- ・校内で出会うと、声を掛けられたり励ましてもらえるようになった。

### ◆教科担任制のメリット

- ・専門性の高い授業が提供できる。
- ・授業スタイルの小中連携につながる。
- ・同じ授業でPDCAサイクルが可能。
- ・多様な課題を複数で共有できる。
- ・同じ視点で学年児童の評価ができる。
- ・どの教員の指導・指示も聞ける子になる。

## 【校内研究】

### ◇研究テーマ

自他を尊重し、集団の中で

自立に向かう子の育成

～リーダー・イン・ミー

の7つの習慣づくり～

- ◇ 変化の激しい21世紀を生き抜くためには、主体的に自分の人生を選び取り、他者と協働し、それぞれの価値を生かしながら、社会に貢献できる「生きる力」が必要です。そこで、子どもたちの「リーダー・シップ」を育む研究に取り組んでいきます。

「7つの習慣」を活用し、21世紀を生き抜くために自ら考えて行動できる「自己リーダーシップ」を開発し、その上で他者と協働できる「人格」を育む学習に取り組んでいきます。

### ◇子どもたちにもたらす効果

- ・自分の考え、基準を作り出せる。
- ・物事に対して、自ら動けるようになる。
- ・人生とは？成功とは？という大切なことを考え、自分の意見をもつことができる。
- ・生きていくために大事な原則を、実体験を通して学べる。
- ・自分の周囲の人を大事にできるようになる。

### ◇研究教科

- ・教育活動において発揮できる力のため、全教育活動で行っていく。

